

平成27年 教育委員会 議事録概要

- I 期 日：平成27年7月30日（木）
- II 開会時間：14時30分
閉会時間：16時30分
- III 出席委員： 委員長 藤原 一師 委員長職務代理者 川口 雅之
委 員 野田 洋二 委 員 岡本 園美
委 員（教育長）板崎 彰
- IV 欠席委員： なし

V 会議内容

1. 開会

2. 答申

（選定委員長）答申を行う。

（委員）今回の選定委員会で特に問題になったことは？

（選定委員長）特になかった。スムーズだった。ただ、社会公民については、使用するにふさわしいと判断されたものが東京書籍と日本文教出版の2社あり、甲乙つけがたかった。また、保健体育については、研究委員会では学研がふさわしいという研究結果であったが、選定委員会では、レイアウトや巻末資料等の工夫がよく、東京書籍の方がふさわしいという判断となった。

（委員）公民では、どんな議論があったのか。

（選定委員長）公民については、東京書籍は課題解決型学習をしやすい、写真が多く図が豊富で生徒の興味関心を喚起しやすいなどの意見があった一方、日本文教出版は今日的課題が明確に掲載されている、各編の全体の学習内容が理解しやすい構成や工夫がなされているという意見があり、議論となった。

3. 採択

(1) 国語について

(委員) 各社の中身を比べても光村図書がよい。

(委員) 中学校の学習のスタートが詩から学習が始まるというのが良いと思う。

(委員) 小学校との接続がしやすそうである。

(委員) 光村図書でいいか？

(委員長) 了承する。

(2) 書写について

(委員) 各社比べると、選定委員会の報告の通り、確かに教育出版のものがよいのではないか。

(委員) 国語と書写の会社が同じものの方が扱いやすいのではないかと考えていたが、教育出版のものは研究報告からもスムーズな連携が取れるということも確認でき、安心した。

(委員) 教育出版でいいか？

(委員長) 了承する。

(3) 地理について

(委員) 全体的に見て、研究報告の通り、各社比べたときに帝国書院の内容がかなり充実している。

(委員) 帝国書院でいいか？

(委員長) 了承する。

(4) 歴史について

(委員) 内容について問題はないか。

(事務局) 各社とも教科書検定を受けて問題がないと判断されたものであり、今回の採択の観点とはしていない。

(委員) 保護者等からの意見書には内容に関わるものもあったが、研究過程に影響はあったか。

(事務局) すべての意見書を確認した上で議論をすすめた。

(委員) 採択の観点をしっかり認識しておく必要があり、検定を通過してきた教科書だ

からすべてが使えるということを、前提として持つておくことが大切である。あくまでも授業を進めていく上で、子どもたちに理解させるのに分かりやすいのはどの教科書かという観点で議論を進めなければならない。

(委員) 郷土岡山に関わる事項にはどんなものがあるのか。

(事務局) 例えば、文化財の種類の中に、吹屋の町並みなどが掲載されている。

(委員) 日本文教出版のものは、全国で使われる教科書であるのにもかかわらず、たくさん岡山県の記載がある。

(委員) 総合的に見て日本文教出版のものがよい。

(委員) 日本文教出版でいいか？

(委員長) 了承する。

(5) 公民について

(事務局) 選定委員会では非常に長い時間審議を行ったが、甲乙つけがたく一社に絞り込むことができなかった。

(委員) 今日的な話題を考えさせるということを大切にしている日本文教出版のものがやはりいいのではないか。分量が多いという指摘も、丁寧にされているからであり、差し支えないのではないか。

(委員) 親の立場から考えると、今現代ではいろんな問題がどんどん出てきており、子どもたちにきちんと正しいことを伝えたいと思うと、今日的な課題が教科書に記載されているということは大切である。

(委員) 今まで使ってきたから教えやすいということではなく、社会情勢の動きが非常に激しい中で、適切に指導するには一番新しい材料が必要。教員が常に最新の情報を教材化することとは思いますが、教科書に記載されているとよりよい。

(委員) 総合的に見て日本文教出版のものがよい。

(委員) 日本文教出版でいいか？

(委員長) 了承する。

(6) 地図について

(委員) 帝国書院に中国大陸からみた地図があるというのはどういうことか。

<各社の記述を確認>

(委員) 日本を中心においていない地図も掲載しているということではないか。

(委員) もちろん、日本中心の地図が基本になっているが、話題として日本を中心にしていないものも敢えて掲載し、生徒が他国から見た日本について意識できるという点ではよい。

(委員) 確かに固定観念をゆさぶり、いろいろな角度から日本の国土の見え方についてじっくり考えることができる。

(委員) 帝国書院でいいか？

(委員長) 了承する。

(7) 数学について

(委員) 啓林館が良いようだが、選定委員会や研究委員会ではどんなことが話題となったか。

(事務局) 特に3社については、質が高く甲乙つけがたいところがあった。やはり、中でも啓林館について、学習活動の展開がスムーズなことに加え、別冊の本を用意して発展的な内容について家庭でも学習しやすいことなど、工夫が見られたことから注目されていた。

(委員) 啓林館のものについて、研究委員の報告で、「困ったときに取り組めるよう配慮があった」とあるが、具体的にはどうよかったのか。

(事務局) 問題の横に、学習したページが記載されており、つまりいたときにどこを見たらよいかの記述がある。

(委員) 同様のものが、数研出版、東京書籍にもあるが？

(事務局) ただ、啓林館には、キーワードの記載とともに、「考えてみましょう」「確認してみましょう」などの記述があり確認すべきポイントも含めて振り返りやすい。

(委員) 数学は、つまりいたらその後ずっと苦労するので、親として困ったとき振り返りやすいものがよい。

(委員) 中身は確かに甲乙つけがたい。しかし、練習問題が適切だったり、別冊があるなどする点から、総合的に見ても啓林館がよいのではないか。

(委員) 啓林館のものは、色や網掛け、メモ用紙形式など工夫がしてあり、ポイントが分かりやすく見やすい。

(委員) 啓林館でいいか？

(委員長) 了承する。

(8) 理科について

(委員) 東京書籍のものは、内容はよいのだが、写真にインパクトがありすぎるところがある。

(委員) 別冊のマイノートというのはどんな内容のものか。

<マイノートの記述を確認>

(委員) 現在、教員が自作しているワークシートに近い内容のようだ。

(委員) 選定委員会報告では、東京書籍のものが科学的な思考力表現力を育むのによいとあるが、啓林館のものを確認してみると、同じくらいしっかり工夫されている。

(委員) 啓林館でいいか？

(委員長) 了承する。

(9) 音楽（一般・器楽）について

(委員) 音楽については、一般・器楽とも各社の傾向が似ている。

(委員) 確かに、教育芸術社のものは、一般・器楽とも紙面がきれいですっきりしている。

(事務局) 研究委員の間でも、視覚的に子どもが分かりやすく工夫しているという意見があった。

(委員) 教育出版にカラーユニバーサルデザインの工夫があると報告されているが、それなら教育芸術社のものも工夫されていると考えてよいのではないか。

(委員) 教育芸術社のものの方が、全体的に全体的にユニバーサルデザイン化がすすんでいるとみてよいように感じる。

(委員) 一般・器楽ともに教育芸術社でいいか？

(委員長) 了承する。

(10) 美術について

(委員) (日本文教出版のものを見ながら) 確かに、見ているだけで楽しくなるという研究報告の意味がよくわかる。

(事務局) 以前は、開隆堂のものの方が見ていて興味関心を引く工夫が多くあり、一時期、本市でも開隆堂のものを採択した時期もあったが、近年は、各社とも興味を引く工夫がなされており、甲乙つけがたくなってきている。また、各社とも内容も偏りが無い。

(委員) 日本文教出版のものが内容構成もよい。

(委員) 日本文教出版でいいか？

(委員長) 了承する。

(11) 保健体育について

(事務局) 研究委員会では学研教育みらいの方が使いやすく、性教育等も充実している、食育についても詳しいという意見でまとまっていた。しかし、選定委員会では、東京書籍のものの方が写真にインパクトがある、薬物乱用について詳しいという意見

もあり、東京書籍の方が優れているという意見も出たため、議論が紛糾した。

(委員) やはり学研教育みらいの方が総合的にみて優れているように見受けられる。

(委員) 確かに東京書籍の写真はインパクトがあるが、資料等はどちらも使いやすい。研究報告の内容から判断するとやはり学研教育みらいのものの方がふさわしいのではないか。

(委員) 実技等が多いことを考えると、内容構成からも学研教育みらいのものの方が指導しやすいのではないか。

(事務局) 性教育等のカウンセリング形式で悩みを話すところが特徴的であるという、学研教育みらいのよさについて研究委員会で話題になっていたところが、選定委員会ではあまり注目されなかったというところがある。

(委員) 性の問題は、今の中学生には大変重要なものであり、工夫して取り上げている学研教育みらいのほうが、やはりよいのではないか。

(委員) 学研教育みらいでいいか？

(委員長) 了承する。

(12) 技術について

(委員) 全体的に見たときには、東京書籍のものがよい。

(委員) 各項冒頭に目標が出てくるのは、東京書籍だけなのか？

(事務局) 他社にもあるが、目標が長い文章になっているなど、他社に比べて工夫が見られるという報告があった。

<各社の記述を確認>

(委員) 東京書籍のものは学習の流れや説明を本文とは別に分かりやすくしてあるところがよいのではないか。

(委員) 日本文教出版でいいか？

(委員長) 了承する。

(13) 家庭について

(委員) 東京書籍については、使いにくいところがあるのが分かるが、開隆堂のものについては研究の過程でどんな話題があがったのか。

(事務局) 魚は魚用の食器に置くよう指導したいときに、開隆堂のものは同じ食器に置かれた写真があり、家庭科として教員が大切にしたいポイントをはずしたものがあるなど、若干使いにくいところがあるということは話題になっていた。確かに私生活ではあることかもしれないが、教科教育としては押さえておきたいという意見があった。また、文書の情報量が多すぎるという意見もあり、東京書籍のものの方がよいと

いう意見に傾いていたようだ。

(委員) 家庭科は、生活を送る上で大切な教科なので、丁寧に教えて欲しいことを考えると、やはり教育図書のものの方がふさわしいと感じる。

(委員) 教育図書でいいか？

(委員長) 了承する。

(14) 英語について

(委員) 東京書籍もよくできているが、ここまではどのような意見がでていたか。

(事務局) よくできているが、全体的に読む文書量が若干多いということは話題になっていた。

(委員) 長文を難しく感じさせない工夫は大切。あきないようにする工夫がある三省堂がやはりよいのではないか。

(委員) 英語の教科書で、英語を使用する機会が多いのはどの教科書も同じではないのか。

(事務局) 研究委員会では、会話などプラクティスの場面が特に工夫されているという意見があった。

(委員) 東京書籍の小中学校の円滑な接続の工夫がたくさんあるというのはどういうことか。

(事務局) 小学校の外国語活動でよく取り上げている活動を取り入れながら、徐々に中学校の学習活動に取り入れているところに工夫が多くある。文字の書体の工夫もある。

(委員) 三省堂にはそのような工夫がないのか。

(事務局) 量的には東京書籍のものほどではないものの、三省堂にも小学校の外国語活動を意識した工夫が見られている。

(委員) 工夫が見られるのなら、三省堂を選定してもよいと思われる。

(委員) 三省堂でいいか？

(委員長) 了承する。

(委員長) 以上で教科書採択を終了する。

3. 閉会